

Ⅲ 学童期の子どもをもつ保護者を対象にしたプログラム

Ⅲ-4 困ったことへの対処法

対象：学童期の子どもをもつ保護者
時間：60分

ねらい	子どもをめぐる様々なトラブルに適切に対応することができるよう、その対処法を考え合うとともに、日頃から、保護者・先生・地域住民とのつながりを深めておくことの重要性に気付く。		
実施のポイント (評価など)	<ul style="list-style-type: none"> ○ トラブルに対する不安感を軽減することができる。 ○ トラブルの対処法の幅を広げることができる。 ○ 周囲の協力を得ながら対処しようとする意欲を高めることができる。 		
事前準備	<ul style="list-style-type: none"> ○ あらかじめ6人程度のグループに分かれておく。 ○ 役割分担をする。(進行・記録・発表) ○ 助言者をお願いできる場合は、事前に打合せしておく。 ○ 筆記用具 		
時間	学習活動	学習活動のねらいとポイント	準備物
導入	5分 ワークの趣旨説明 ○アイスブレイク ・自己紹介	<ul style="list-style-type: none"> ・自己紹介では、保護者や子どもの名前、気がかりな事などについて話することで、悩みを共有しようとする雰囲気づくりをする。 ・特定の参加者が批判されないよう留意する。 	
展開	15分 ワーク1 ・エピソード文を読む。 ・ロールプレイを行う。 ・2人の気持ちを考える。 (個人で記入し、その後グループで協議)	<ul style="list-style-type: none"> ◎登場人物の心情を想像することで、子どもの立場に立った接し方についてみんなで考えることをねらいとする。 ・太郎役、保護者役を決め、ロールプレイを行う。(2名) 他の4名は、保護者の声かけの仕方と効果を観察する。 ・子ども役は、どう聞かれると話しやすいかの感想を述べ、つらい思いの子どもに、どう対応するのが効果的かを考える。(保護者の接し方) ・わが子を大切に思うと同時に、どうすればいいかとまどってしまう保護者の気持ちにふれる。 	役割分担表
	15分 ワーク2 ○各自での作業 ・解決方法を選択する。 ・後の展開を想像する。 ・後日、話を聞かされた、次郎の保護者の対応について考える。 ○グループ協議 ・各自の作業で記入したことを発表する。 ・意見交流	<ul style="list-style-type: none"> ◎事例への対処法を考えることで、トラブルへの対処法について幅を広げることがねらいとする。 ・方法は複数選択可とし、その場合は、順番も考える。 ・両方の保護者の気持ちを想像しながら、対応を考えられるようにする。 ・どの解決方法にも、長所・短所があることに気付く。 ・人間関係の親密度により、効果が異なることに気付く。 ・加害者的立場となった時の対応法についても話し合う。 	
	15分 ワーク3 ○グループ協議 ・想定事例について、ワーク2をもとに、対応方法を考える。 ・日頃から、必要なことについて話し合う。	<ul style="list-style-type: none"> ◎他の場合の対応方法や日頃から必要なことについて考えることで、周囲の協力を得ながら対処する必要性について気付くことをねらいとする。 ・参加者の状況を配慮しながら、ファシリテーターが、取り扱う想定事例を選択しておく。 ・ワーク2の対処法を選択したり、組み合わせたりしながら、事例の特性に応じた対応方法を考える。 ・周囲の支援が効果的であることと、保護者・先生・地域との日常のつながりが重要であることを確認する。 	
まとめ	10分 ふりかえり ・各自の思いを記入する。 ・発表し合い、共有する。	<ul style="list-style-type: none"> ・資料を紹介し、みんな悩みをかかえていること、地域とのつながりがある人は不安が少ないことを伝える。 ・子育てにトラブルはつきもので、心配せず自信をもって、いざとなったら1人で悩まず、周囲に援助を求めることが大切であることを伝える。 	資料